



2014 年教会学校月間

リーダーだって悩んでる

■ 日本バプテスト連盟 ■

教会学校で奉仕しているリーダーを応援し、クラスメンバーにその働きと思いを理解していただけるようにと願い、このリーフレットをお届けします。教会学校科長としてリーダーを支える奉仕を担っておられる方の証を紹介します。(榎本謙)

■リーダーを支える「リーダー会」

多くのリーダーは、それぞれ自分の生活をやりくりして時間を作り、ご奉仕なさっているのではないのでしょうか。私は、小学科の科長として毎年「来年度のリーダーをお願いできませんか」と声かけすることを大きな役割と感じています。しかし、もっと大きな役割と考えているのは、そのリーダーを支えつつ、共に歩むことです。毎月のリーダー会では、翌月の4週分、5週分の聖書の学びを一緒に行います。リーダーにとっては、「何を語ってもいいよ。お任せします」と言われるのが一番困ると考えるからです。科長としての大きな役割は、「いかにリーダーを孤立させずにお支えるか」だと思っています。

■ギャップはある！

学校で学んでくる「常識」を懸命に自分の中に植え付けようとする子どもたちの姿があります。そんな子

どもたちを目の前にして、聖書の語る常識を共有しようというのですから、語る側のリーダーは、常に自分の信仰と向き合いながら準備をしなければなりません。聖書の語ることは、世の中の常識と矛盾することが多いのです。矛盾しっぱなしです。でも、その中から聞こえてくる神さまのささやく声を聴き取りたいのです。大切な点は、まず「聖書が語るメッセージと現実の私たちの価値観とにギャップがある」とリーダー自身が感じることです。リーダーの働きは、そのギャップに正面から、また真剣に「悩む」ことから始まるのではないのでしょうか。都合よく間をつないで、無理やりメッセージの着地点をそつなく作り上げてはいけないのだと思います。

■リーダーに求められているもの

聖書の言葉が、どこか上滑りするように「きれい事」として聞こえては、子どもたちに伝わりません。現実を生きている子どもたちと一緒に聖書を読むとき、リーダーが語りやすいように何かプラスをしたり、間引きして読んではならないと思っています。そのメッセー



ジが厳しくても、たとえリーダー自身でさえ理解するのが難しいと感じても、やっぱり誠実にみ言葉に向き合いたいと思います。現場のリーダーも悩みながら聖書と格闘しているのです。教会学校リーダーに求められているものは、子どもに教える技術があることや聖書の知識が豊富なことではなく、この「誠実さ」が大切なように思います。神さまが子どもたちに直接働きかけてくださることを信じつつ、伴走させていただく私たちは、神さまから「頼むよ！」と任されている働きを精一杯はたしてゆきたいと願います。教会学校は教会そのものが担い、託されている場なのです。

[2014.6.13 日本キリスト教教育学会発題より]

(磯野泰子 常盤台教会小学教科長)

日本バプテスト連盟「教会学校の目的」

「教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰に導かれ、教会を形づくり、生の全領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。」

1971年制定、1999年改訂